



Title	平成29年度 事業実施報告
Author(s)	
Citation	大阪公衆衛生. 2019, 90, p. 25-29
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78691
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

平成29年度 事業実施報告

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

【事業の状況】

公益財団法人大阪公衆衛生協会は、昭和29年（1954年）の設立以来公衆衛生従事者、公衆衛生関係学会人、公衆衛生団体関係者などが相集い、公衆衛生に関する事業を行ってきた。

現在は、定款に定める①公衆衛生に関する教育・普及啓発事業、②公衆衛生に関する調査・研究の奨励及び助成事業、③公衆衛生に関する機関誌の頒布・図書の発行事業、④ストップ結核パートナーシップ推進事業など公益目的事業を実施し、健康で文化的な府民生活の建設に寄与することとしている。

1. 公益目的事業（公1）

【普及啓発事業】

1) 平成29年度 小児保健部会「講演会」

現在の子どもたちには、何らかのアレルギー疾患、とくに食物アレルギーやアトピー性皮膚炎の増加が指摘されています。これらのアレルギー疾患を持った子どもたちが保育所・幼稚園・学校・学童保育などの家庭以外の場において、医師からの生活管理指導表を受け取って、過ごすことは珍しくありません。また、何らかの原因により、重篤なアレルギー症状を発症して、ニュースになることがある。

このような状況では、さまざまな関係機関の担当者には、アレルギーに対する知識がより一層求められている。そこで、最近の研究成果に基づいたアレルギー指導を習得することで担当者のスキル向上を図っていきたく、小児アレルギー分野における第一人者で、日本小児アレルギー学会理事長を務めており、食物アレルギー、および災害時におけるアレルギーの子どもたちを守るための啓発活動にて尽力されてこられた立場から、話をいただいた。

日時 平成30年2月7日（水）

14：00～16：30

場所 大阪赤十字会館 3階 301号

参加者 61名

テーマ 「最新の知見に基づいた小児アレルギー分野での保健指導」

《講演》

演題 「最新の知見に基づいた小児アレルギー分野での保健指導」

講師 藤澤 隆夫 氏

（日本小児アレルギー学会理事長・国立病院機構三重病院院長）

座長 田端 信忠 氏

（大阪市保健所母子保健担当医務主幹 兼 天王寺区役所医務主幹、こども青少年局子育て支援部医務主幹）

2) 平成29年度 成人保健部会「講演会」

介護予防、高齢者の健康づくり分野における「フレイル」について公衆衛生に携わる者として正しく理解し、効果的に介護予防・健康づくり事業を実施するために、講演1では、平成13年よりサルコペニアを主とした介護予防に関する研究を大阪医科大学公衆衛生学教室にて行い、平成26年からは高槻市健康福祉部保健所にて精神・難病・感染症を担当した後、介護予防・認知症対策および介護保険関係を取り扱う健康福祉部長寿介護課において、福祉と医療の橋渡しをモットーに日々励んでいる谷本 芳美 氏にお話いただいた。講演②では認知症について学んだ。認知症は、何かの病気によって脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態をいい、認知症が進行すると、だんだんと理解する力や判断する力がなくなって、社会生活や日常生活に支障が出てくるようになる。アルツハイマー型、レビー小体型、血管性認知症など記憶や情動、幻覚、妄想などの神経基盤について研究を重ね、認知症医療システムの発展に寄与された立場から 池田 学 氏にお話をいただいた。

テーマ 『知っておきたい高齢者の健康課題』

日時 平成30年1月31日（水）

14：00～16：40

場所 大阪赤十字会館 3階 301会議室

参加者 70名

座長 松本 一美氏

（大阪府寝屋川保健所長）

《講演1》

演題 「今話題のフレイルを高槻市のデータから検証する」

講師 谷本 芳美 氏
(高槻市健康福祉部長寿介護課主幹・
医師)

《講演2》

演題 「認知症の予防から治療・ケアまで」
講師 池田 学 氏 (大阪大学大学院医学
系研究科精神医学分野教授)

司会 前川 敏美 氏 (なの花薬局)
特別講演2 『HIV感染症認定薬剤師資格取得
までの具体的な流れについて』

講師 中村 美紀 (HIV感染症認定薬剤師
(きらめき薬局))

司会 根岸 由美 氏
(ジャパンファーマシー薬局)

3) 平成29年度 感染症予防部会

1. 講演会

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS先端医療開発センター・公益財団法人
大阪公衆衛生協会・公益財団法人エイズ予防財
団が共催で大阪エイズウィークス2017参加企画「
ジョゼ・アラウージョ氏の講演会を開催してブラ
ジルでのセクシャルマイノリティ当事者活動の最
前線で活躍してきた同氏に話を聞いた。

テーマ 『市民が社会を動かし、実行力のある
施策を作る ～世界で最もエイズ
対策が進んだ国、ブラジルから学ぼう～』

座長 白阪 琢磨 氏
(公益財団法人大阪公衆衛生協会感
染症予防部会長)
(独立行政法人国立病院機構大阪医
療センター臨床研究センターエイズ
先端医療研究部長HIV/AIDS先端医
療開発センター長)

日時 平成29年12月10日 (日)
14:00～16:00

場所 TKP大阪梅田駅前ビジネスセンター
カンファレンスルーム2A

参加者 13名

2. 第2回関西HIV・薬剤Workshop

特定非営利活動法人薬と医療の啓発塾と公益財
団法人大阪公衆衛生協会が共催して、一般社団法人
大阪府薬剤師会の後援で大阪エイズウィークス
2017参加企画「第2回関西HIV・薬剤Workshop
を開催した。多くの保険薬局の薬剤師にHIV感染
症に理解を求めた。

日時 平成29年12月2日 (土)
16:00～19:00

場所 AP大阪駅前梅田1丁目 B1階
Aルーム

参加者 25名

特別講演1 『チームで取り組むHIV感染症
～拠点病院の現状と課題～』

講師 白野 倫徳 氏 (大阪市立総合医療
センター感染症内科医長)

4) 平成29年度 生活衛生部会「講演会」

公衆衛生行政は、監視指導業務、保健業務とと
もに、健康危機管理業務が大きな柱となっている。
2017年7月、大阪港でヒアリが見つかった。環境
省と国土交通省は国内主要な7港で確認調査を行
い、大阪港で見つかったヒアリは専門機関によりヒ
アリであることが確認された。10月には大阪市港
湾局などから調査を依頼された大阪府ペストコン
トロール協会は港の外国船の荷下ろし場などでヒ
アリの生息が定着しているかを調査した。専門機
関の立場からヒアリの生態、食性、被害など具体
的な対応について学んだ。

テーマ 健康危機管理事象における公衆衛生
従事者等の役割を考える

日時 平成30年2月14日 (水)
14:00～16:30

場所 大阪赤十字会館 3階 303号

参加者 81名

(総合司会) 公益財団法人大阪公衆衛生協会
生活衛生部会長 今田 光三

《講演1》「気をつけて！危険な外来生物ヒアリ」
～ヒアリに遭遇したらどうする？～

講師 佐藤 裕蔵 氏
(住化エンバイロメンタルサイエン
ス株式会社グループリーダー)

《講演2》演題 「ストップ・ザ・ヒアリ」
～大阪における水際防除作戦～

講師 曾谷 久嗣 氏
(大阪府ペストコントロール協会
副会長)

5) 平成29年度 「エイズ予防事業」基金による 普及啓発調査活動

エイズが世界的な規模で拡大し、わが国の感染
者・患者数も増加の一途をたどり、大きな公衆衛
生問題となっている。

大阪でも、新規HIV感染者・エイズ患者の報告
が増加している。HIV感染者の中で同性間感染が
81%、AIDS患者では同性間性的接触が66%であ
り、同性間の感染者、患者への対策が課題となっ
ている。

MASH大阪は、男性同性愛者MSM (Men who have sex with men) のエイズ予防のための近畿で唯一の民間団体であり、その団体が予防啓発のための「大阪地域中高年MSM層のための啓発資料」の作成費と活動を支援した。

6) 藤原九十郎顕彰事業

1) 第39回藤原九十郎表彰式並びに記念シンポジウムの開催

生涯を公衆衛生にささげられた故藤原九十郎博士のご遺徳を記念して設立された基金事業として実施。長年にわたる保健活動を通じて公衆衛生・看護事業の発展と、後輩の指導育成、並びに地域保健福祉活動に尽力された五氏を表彰するとともに、受賞者によるシンポジウムを実施した。

日 時 平成29年5月22日(月)

14:00～16:30

場 所 大阪病院年金会館

コンベンションルーム

参加者 122名

[第1部] 表彰式

受賞者(5名) 伊東 和子 梶山 直美
蒲田 廣子 川崎 純子
熊谷由喜子

[第2部] シンポジウム

テーマ 「今も昔も～見る・つなぐ・動かす」
～私の保健師としての実践活動～

座 長 岡本 玲子(大阪大学大学院医学系
研究科保健学専攻教授)

シンポジスト 受賞者

伊東 和子 梶山 直美 蒲田 廣子
川崎 純子 熊谷由喜子

2) 藤原九十郎賞顕彰委員会の開催

日 時 平成30年3月20日(火)

18:00～19:00

場 所 大阪公衆衛生協会 事務所

内 容 第40回藤原九十郎賞並びに記念シン
ポジウムについて

受賞者の選考・会場・開催期日

2. 公益目的事業(公2)

【母と子のすこやか基金による調査研究等の助成】

1) 平成29年度 第1回「母と子のすこやか基金」 運営委員会の開催

内 容 平成30年度「母と子のすこやか基
金」助成募集について

日 時 平成29年12月4日(月)

18:30～19:30

場 所 大阪府立母子保健総合医療
センター 総長応接室

2) 平成29年度 第2回「母と子のすこやか基金」 運営委員会の開催

内 容 平成30年度「母と子のすこやか基
金」助成申請の審査

日 時 平成30年3月1日(木)

18:00～19:00

場 所 大阪府立母子保健総合医療
センター 総長応接室

「母と子のすこやか基金」は、母子保健医療の向上と健康保持推進に寄与する調査・研究並びに啓発活動等に対して助成を行うものとして、平成29年度は、21件の応募があり、「母と子のすこやか基金」運営委員会の審査を経て、12件、553万円を助成した。

〈研究助成〉

- 1) 吉田 千春：先天性奇形である神経管閉鎖不全(NTDs)の発症分子機序の解明
- 2) 山村なつみ：小児慢性腎臓病進展因子FGF23と鉄代謝・骨代謝に関する検討
- 3) 吉村 芳修：重症習慣性流産患者でのSNP解析に基づく原因蛋白変異の解析
- 4) 植田 初江：妊産婦死亡に関連する疾患の病理学的解析
- 5) 池淵 良洋：タイトジャクションを越えて母乳に遊出するT細胞に関する研究

〈学会・研究会開催助成〉

- 1) 位田 忍：第7回大阪小児在宅医療を考える会
- 2) 岡本 伸彦：第25回母と子のすこやか基金シンポジウム

〈啓発・調査活動助成〉

- 1) 植田紀美子：遺伝性疾患や障がいを持つ子どもの家族に対する”前向き子育て”の理論と実践に関する啓発活動
- 2) 古藤 雄大：酵素補充療法を行っている先天代謝異常症児(者)の生活の質に関する調査
- 3) 岩佐美奈子：自閉症スペクトラム児の障害特性を受容することに困難を抱えた親への支援
- 4) 中 由美：小児コッホ現象事例の調査・活動支援助成

〈国際交流助成〉

- 1) 臼井 規朗：カンボジア国立小児病院・大阪母子医療センター交流助成事業

3. 公益目的事業（公3）

【ストップ結核パートナーシップ推進事業】

平成29年度 ストップ結核パートナーシップ関西
第5回 ワークショップの開催

テーマ 「大阪あいりん地域の結核対策の進
捗状況」

結核問題の解決には、行政機関・医療機関・研
究機関・市民が連携し、社会が総力をあげて対策
を行うことが求められている。結核を取り巻く状
況は、結核緊急事態宣言発令以来、順調に患者数
が減ってきていることに示されている。この傾向
を維持していくことが今後の大きな課題である。
昨年度に続き、あいりん地域の結核対策の現況と
将来の展望について聴き、大阪の結核減少に向け
る対策について議論した。

本事業は、一般財団法人大阪府結核予防会、及
びストップ結核パートナーシップ日本、NGOリ
ザルツと共催で実施した。

日 時 平成30年2月24日（土）
13：30～17：30

場 所 あべの貸会議室 リンク大阪
ルームA

参加者 58名

《シンポジウム》1

コーディネーター 関西大学社会安全学部
教授 高鳥毛敏雄

1 大阪市西成特区の結核対策の進捗状況

1) 「西成特区構想の概要および接触者・未治
療陳旧性結核への対応」

演者 大阪市西成区役所結核対策特別顧
問・（公財）結核予防会結核研究
所主幹 下内 昭

2) 「高齢者特別清掃従事者のLTBI治療につい
て」

演者 大阪市保健所感染症対策課医務副
主幹 小向 潤

3) 「あいりん地域における結核医療について」

演者 社会福祉法人大阪社会医療セン
ター附属病院副院長 工藤 新三

4) 「夜間緊急避難宿泊所（シェルター）にお
ける結核接触者健診の状況」

演者 大阪市西成区保健福祉センター
保健師 笠井 幸

5) 「あいりん地域の結核菌分子疫学の状況」

演者 地方独立行政法人大阪健康安全基
盤研究所 山本 香織

《講 演》

座長 大阪市保健所長 吉田 英樹

「QFT検査および結核発病マーカーを用いた

あいりん地域の結核対策への試み」

講師 地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター臨床研究
センター長 橋本 章司

4. 会員及び寄附金等の確保

1) 会員の確保

平成30年3月31日現在の会員種別、金額

○特別会員（団体） 69団体 710,000円

○通常会員（個人） 604個人 612,000円

合計 1,322,000円

2) 寄附金の確保

○団体 5団体 290,000円

○個人 5人 856,636円

合計 1,146,636円

3) 広告収入の確保

機関誌「大阪公衆衛生」への広告掲載収入
3件 250,000円

5. その他事業

【機関誌・図書】

1) 機関誌「大阪公衆衛生」89号の発行

（出版編集室）

機関誌「大阪公衆衛生89号」を発刊のための
出版編集室会議を開催し、題目、執筆者を決め、
2300部発刊し、会員、医療機関、保健所、市町村
等に配布した。

発行：平成30年3月

《内容》

巻頭言

平成30年の夢「公衆衛生の現場、保健所
から見えるもの－今、保健所の公衆衛生が
面白い!?－」

大阪府八尾保健所長 高山 佳洋
特 集「大阪の健康と安全を支える」

(1) 大阪の健康を守るために〈自治体間の
協調〉

大阪府吹田保健所長 谷口 隆

(2) 「大阪健康安全基盤研究所の誕生とこれ
から」

大阪健康安全基盤研究所

理事長 奥野 良信

(3) 「河内長野市医師会地域連携室の取組み」

一般社団法人河内長野市医師会

宮崎 浩 他

(4) 「大阪府保健所検査事業の現状と課題」

大阪府藤井寺保健所生活衛生室

検査課長 加藤 友子

(5) 「東大阪市における環境衛生検査セン

ター業務について」

東大阪市環境衛生検査センター

所長 大坪多佳子

- (6) 「西淀川区公立小学校高学年生を対象にした喫煙防止教室の取り組みについて」

淀川勤労者厚生協会西淀病院

千北診療所

大阪家庭医療センター

家庭医療専門医 野口 愛

- (7) 「常設夜間休日HIV検査場“chot CAST なんば”の現状と課題について」

特定非営利活動法人

スマートらいふネット

毛受 矩子／熊本 光代

トピックス

- (1) 「超高齢社会における総合的機能評価(CGA)の意義」について

公益社団法人日本WHO協会

理事長 關 淳一

- (2) 「公衆衛生の原点に～枚方市保健所長に就任して～」

枚方市保健所長 白井 千香

会員の声

- (1) 「私の保健師としての実践活動」

元大阪市保健師(藤原九十郎賞受賞者)

熊谷由喜子

- (2) 「私の保健師としての実践活動」

東大阪市健康部次長 山本クニ子

2) 「地域保健ノート」の発行

本書は保健所や市町村保健センターの事業について解説し、大阪府内看護大学・看護専門学校等の保健師学生・看護師学生が保健所や市町村保健センターの研修に際して使用している。巻末に保健所・市町村保健センターで実習を受ける際の留意点・実習記録、相談記録用紙も付けている。「地域保健ノート」は平成28年3月に2016年版を発行し、販売している。平成29年度の販売数は、989冊である。

3) 「わかりやすい公衆衛生学」発行に協力

本書は、看護・保健課程の教科書、参考書として活用されており、看護師国家試験の出題基準にも準拠している。また、公衆衛生行政に携さわる人々にも役立つものとして編集されている。一般教養の教材として利用されることも多い。当協会はこの書籍をホームページなどで紹介している。この書籍はヌーヴェルヒロカワが編集・発行を行っている。

【評議員会・理事会】

1. 評議員会・理事会の開催状況

平成28年度の事業報告及び決算報告等、平成30年度の事業計画及び収支予算等審議のため理事会を2回、評議員会を2回開催した。

- 1) 平成29年6月8日(木)理事会

(決議事項)

- ・平成28年度 事業報告及び収支決算報告
- ・資金運用規定の件
- ・評議員会の招集

(承認事項)

- ・評議員候補者について
- ・理事及び監事候補について
- ・代表理事(会長)専務理事候補について

(報告事項)

- ・業務執行理事の職務執行状況報告

- 2) 平成29年6月28日(水)評議員会

(決議事項)

- ・平成28年度 事業報告、決算書類及び財産目録の承認の件
- ・役員任期満了に伴う選任の件
- ・評議員任期満了に伴う選任の件

- 3) 平成30年3月8日(木)理事会

(決議事項)

- ・平成30年度事業計画及び収支予算書について
- ・資金運用規定の定めについて
- ・専門部会の組織及び運営に関する規則について
- ・臨時評議員会の招集について

(報告事項)

- ・業務執行理事の職務執行状況報告について

- 4) 平成29年3月29日(水)評議員会

(決議事項)

- ・平成30年度事業計画書及び収支予算書について

(報告事項)

- ・専門部会の組織及び運営に関する規則について
- ・母と子のすこやか基金事業について
- ・藤原九十郎顕彰基金事業について